

D-11. ラット三大唾液腺におけるアルカリ及び酸ホスファターゼの超微構造的局在性について

大阪大学歯学部第2口腔外科
森本泰弘, 松浦英夫, 藤田訓也

ラットの三大唾液腺について、電顕的にアルカリ及び酸ホスファターゼの局在性を観察し、比較検討した。

アルカリホスファターゼは Gomori の **Lead modification**, 酸ホスファターゼは Gomori の方法により証明した。

アルカリホスファターゼの局在性に関しては、三大唾液腺で特にその差異は認められず、**acinus** 及び **intercalated duct** の筋上皮細胞及び細胞膜（特に基底部）に陽性で、**acinus** の管腔側の **microvilli** 及び **capillary vessel** の **endothelial cell** 及び **erythrocyte** の **plasma membrane** に認められた。

酸ホスファターゼは、顎下腺及び舌下腺で、一部の **smooth surfaced ER** の内腔及び **acinar cell** の **basal membrane**, 筋上皮細胞と腺細胞の隣接周囲に認められた。耳下腺では認められなかった。

D-12. ラット三叉神経節における **Acetylcholine esterase**, **Alkaline phosphatase** の超微的局在について

大阪大学歯学部第2口腔外科
松浦英夫, 森本泰弘, 藤田訓也

ウイスター系雄性成熟ラットを断頭し、直ちに三叉神経節を摘出、2%冷グルタルアルデハイド固定液に浸漬固定した後、**Acetylcholinesterase (AChE)** は **Karnovsky-Roots** 法により、**Alkaline Phosphatase (ALP)** は Gomori 法の **Lead modification** により証明を試みた。次に **Millonig** 固定液にて再固定し、以降は通法に従った。

AChE の活性は神経細胞と外套細胞の接合部に見られる迷路様構造に度々陽性であつた。その他 **ribosome** 相当部、**smooth surfaced ER** や **large vesicle** の膜、内腔、及び **nuclear envelope** に陽性であつた。

神経線維では **axolemma** と **neurotubule** に陽性であつた。**ALP** は神経細胞と外套細胞の接合部（特に迷路様構造）にのみ陽性であつた。**AChE** **ALP**、ともに膜における **transportation** に関与する酵素とされており、神経細胞と外套細胞の間に物質の授受が推察される。